

【高等学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立唐津商業高等学校(全日制)
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習が定着したとアンケートに答えた生徒の割合は72.6%であり、目標を達成するまでにはいかなかったが、検定試験等の合格者数は目標を概ね達成できた。 生徒の指導やいじめに対する対応も、職員が高い意識を持ち、組織的に対応することができている。 地域貢献ボランティアやSAGAスマートラーニングでは、地域と連携した学習活動ができており、継続して生徒に学びの機会を提供し、生徒の育成に努めたい。
2 学校教育目標	幅広い知識と教養を身に付け、自ら考え行動する資質を育み、ふるさと唐津や我が国の発展に貢献できる人材(人財)を育成する。
3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 学力の向上 わかる授業、考える力(論理的思考力)を身に付け得る授業を実践し、生徒の学ぶ意欲を高め、適正な進路選択ができる学力の定着を図る 商業教育の充実 「ホスピタリティマインド(気配りができる心の持ち方)」を会得するとともに商業生として差別化できるだけの専門的な知識とスキルを習得させる商業教育を実践する 地域社会への貢献 常に社会貢献の視点を持ち、常に学校の情報を積極的に発信しながら、学校教育活動全般を通じて地域社会と共存する取組を実践する

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価			主な担当者	
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価				
重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	○基礎学力の向上と定着 ○学力診断・各種適性検査の活用による指導の改善	○家庭学習が定着したという生徒の割合85%以上 ○学力診断に基づく客観的分析の実施問題解決できる生徒の割合70%以上	・就職試験に対応できる普通教科の基礎学力定着を重点的に指導する。 ・主体的な進路選択ができるよう、客観的データを有効に活用しながら支援を行う。	C	・アンケートで回答した約77.7%の生徒が課題の提出や家庭学習に意欲的に取り組んでいると回答しており、指標の85%には到達していない。 ・学力診断テストの結果等を活用したカリキュラムマネジメントは十分ではない。	B	・課題の提出や家庭学習に意欲的に取り組んでいる生徒の割合は85%には到達しなかったが、各学年で学力テスト等の結果を活用しながら丁寧な指導ができており、生徒も各々の努力を継続できている。	B	・生徒の学習意欲を高めるような取組を提案して、継続的に指導を行っていくことが必要である。	教務主任 各教科主任 各学年担当者
	○確かな知識と技術の習得 ○高度な資格取得	○会計科は、3年次までに日商簿記検定2級を全員取得 ○商業科情報処理コースは、3年次までに全員全商検定4種目以上の1級取得	・商業科目の中で、資格取得の意識を理解させるとともに、資格の活用についても考えさせる指導を行う。 ・資格取得の有用性を考えさせる進路支援を行う。	B	・アンケートで回答した約91.1%の生徒が資格取得に積極的に取り組んでいると回答しており、確かな知識と技術の習得の意識が高いと評価できる。 ・会計科は、全員日商簿記2級を3年次までに取得した。	B	・資格取得奨励金の導入により、生徒の意欲も高まりつつある。2年時に日本商工会議所簿記検定1級に合格する成果をあげた。高度資格取得の指導を継続する。	B	・検定等の不合格者に対して、次回の意欲が続くような指導を行う。	教務主任 各教科主任 各学年担当者
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○授業や特別活動、部活動など教育活動における様々な機会を用いて、指導を行った職員の割合90%以上。 ○SNSを適切に扱っているとする生徒の割合85%以上	・授業、特別活動、部活動等すべての教育活動において、道徳教育を念頭に置いた指導を行い、人や社会の多様性、命の大切さ、他者への思いやりを身に付けさせる指導を行う。	B	・様々な教育活動の中で、各担当職員が、生徒に対して自他の生命を尊重する心を育む支援を行っている。 ・アンケートで回答した約96.4%の生徒がSNSの利用に注意していると回答した。	B	・他者への思いやりのある言動ができるよう日々の指導を継続しており、SNS等のトラブルが減少している。	B	・社会的にもSNSの扱いに注意が必要な時期なので、定期的に指導を行っていかざるを得ない。	生徒支援部主任 各学年担当者
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの防止策について、日頃から組織的に対応しているとする職員の割合90%以上 ○いじめを許さない教育が行われているとする生徒の割合80%	・いじめ認知、認知の定義について職員会議等で周知徹底するとともに、対応マニュアルの見直しを行う。	A	・いじめの認知・認知は早期発見から解消に向かった事例があり、成果があった。 ・職員が早期対応のため組織的に対応する体制が整いつつある。	A	・いじめの認知・認知を早期に行い適切な指導につなげることで、再発防止や生徒への未然防止につながる指導ができています。	A	・適切な指導が行われている。	生徒支援部主任 各学年担当者
	●★ふるさと唐津への思いを醸成するための教育活動	○佐賀県や唐津市(地元)に誇りと愛着を感じる生徒の割合85%	・地域の伝統文化に精通している人や地域貢献活動を行っている人を招いて、講演会を行う。	A	・9月、10月、11月に地域で活躍する方に教育講演会をお願いし、生徒のふるさと唐津への思いを醸成することができている。	A	・地域で活躍する方の教育講演会を定期的に行うことで、ふるさと唐津を誇りに思う心の醸成につなげた。年度末は、地域事業所の方々に講師を依頼し、キャリア教育にもつなげていく。	A	・生徒自身の食事を自分で作らせるなどの活動を増やしたらどうか。	教務部担当者 さがを誇りに思う教育推進事業担当者
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に良い食事をしている」生徒80%以上	・保健だより等で食事の大切さについて伝達する。	A	・食育講演会でのアンケートで、朝食を必ず食べると回答した生徒が80%程度おり、食事の大切さについて理解が進んでいる。	A	・食育講演会で、「健康に良い食事をすることについての意識を高めることができた。食育だよりも定期的に発行している。	A	・生徒自身の食事を自分で作らせるなどの活動を増やしたらどうか。	保健部担当者
	○健康診断後の受診率向上	○健康診断後の各検査の再受診率を60%以上	・健康診断後の受診勧奨と保健指導を継続して行う。	C	・受診勧奨は行っているものの、再受診率は13.8%にとどまっており、引き続き生徒への呼びかけが必要である。	B	・健康診断で再受診の必要がある生徒に対する受診勧奨は粘り強く行った。来年度以降も引き続き再受診につながる指導を行う。	B		保健部担当者
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週水曜日を定時退勤日とする。 ・ICTを活用した業務の改善や効率化の取組を行う。	A	・4月から11月までの平均の時間外在校等時間は約28時間で、昨年度と同水準の時間で推移しており、職員の業務改善が進んでいるものと考えられる。	A	・時間外在校等時間は、年間を通して低水準を維持できている。どの職員も効率よく業務を遂行している。	A		管理職
	○年休取得の推進	○年間14日間以上を取得した職員70%以上	・定期考査期間中等の会議設定を極力控え、取得しやすい環境を作る。 ・部活動等の計画的実施を促進し、休養を取りやすくする。	C	・9月までの平均取得日数は約5日であり、職員への年休取得の呼びかけが必要である。週休日に勤務を行う職員が複数おり、振休の取得を優先するため、年休取得の推進はまだ進んでいない。	B	・9月までの取得日数は多くなかったが、年末や年始の冬季休業中や年度末にかけて取得率も高まっている。職員の積極的な年休取得について推奨を継続する。	B	・職員が健康でないと良い指導はできないので、積極的に年休を取得取得してほしい。	管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者
★唯一無二の誇り高き学校づくり	○★SAGAスマートラーニング指定校として実践型ビジネス教育を実施	○★月2回の外部講師の招聘 ○地元企業に求められる人材を育成する。 ○自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合80%以上、職員85%。	・地元企業とコラボしてオリジナル商品の開発をし、地域とつながる活動を行う。 ・インターンシップ等を充実させ、地域と連携した魅力ある教育活動を行い、教育の成果を広く地域に伝える。	B	・地元企業とのコラボ商品や販売実習を積極的に進めており、地域とつながる活動ができています。 ・アンケートで唐津商業高校を中学生に勧めることができると回答した割合が91.9%であった。	A	・地元企業とのコラボ商品を、佐賀市でも販売実習を行うなど積極的な活動ができた。本校の魅力を生徒自身が理解し、誇りをもって中学生等に薦めることができるよう今後も指導を継続していく。	A	・体験的な学びは、生徒の成長につながるため、さらに充実させてほしい。	生徒会 サガスマートラーニング事業担当者 商業科主任
○地域貢献活動	○地域清掃・イベント活動参加を通して広く地域から支持される生徒を育成	○虹の松原清掃活動を年2回以上行う。 ○国スポ・全障スポのボランティア登録者50%以上	・地域貢献活動を生徒に呼びかける。 ・国スポ・全障スポのボランティア登録について周知し、プレ大会等の補助員参加を勧奨する。	B	・虹の松原清掃は、例年どおりの取組として、3月に実施する予定である。 ・国スポ等のボランティア登録は50%程度であるが、積極的な参加はできていない。	B	・生徒の主体的なボランティアや奉仕活動となるよう指導を行う。国スポボランティア登録は、187名で、1・2年生の62%であった。積極的な参加に期待したい。	B	・国スポのボランティア登録は、唐津市全体の役29%を占めており、貢献している。プレ大会等でも、販売実習等に取り組んでいて、評価できる。	管理職 特別活動主任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学ぶ意欲を高めることにつながる授業の実践は、職員全員が丸ごと取り組む課題であり、次年度もさらなる適切な進路選択につながるよう粘り強く指導を行う必要がある。 「ホスピタリティマインド(気配りができる心の持ち方)」の会得と商業性としての専門的知識・スキルの習得の両立はある程度達成できているが、他校との優位的な差別化ができるよう指導力の向上を図る。 地域社会と共存する取組は、商品開発等の取組として実践できているが、さらに地域から必要とされる学校づくりや地域の発展に役立つ能力を身に付けさせる取組を今後も行っていく必要がある。
----------------	--